

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教 師 ノ ー ト

日付	2013年 2月 3日
単元	マタイの福音書・2
テーマ	イエスさまのみことばの権威を信じる者となる
タイトル	百人隊長の信仰
テキスト	マタイ8:5～13
参照箇所	ルカ7:1～10
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ8:8 or マタイ8:13
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまは山の上でのお話を終えられると、町々で福音を宣べ伝え、奇跡をおこなわれました。今日は、カペナウムという町でイエスさまがなされたことのお話です。

☞先月から引き続き、「イエスさまの生涯」の単元です。お話を始める前に、前回までの内容を振り返りましょう。子どもたちが、イエスさまの生涯の「流れ」を理解できるように、意識しましょう。

□ポイント1 百人隊長はイエスさまにお願いしました(5-6節)

山を下りてこられたイエスさまのところに、次々と人がやってきました。質問をしたいという人や、病気をなおして欲しいという人たちです。「救い主が来られた!」「イエスさまってすごい!」という噂が、どんどん広まっていたのです。

そうした中、イエスさまが、カペナウムという町に入られたときのことです。ひとりの百人隊長が、イエスさまのところに来ました。百人隊長というのは、その名の示すとおり、約100人の兵士をもつ部隊の隊長さん(軍隊の指揮官)のことです。この百人隊長は、イエスさまに言いました。「主よ、私のしもべが、中風という病気でひどく苦しんでいて、死にそうなほどです。」助けてもらえるように、熱心をお願いしたのです。

☞ルカ7:2～10を読むと、この百人隊長は、軍人として地位が高かっただけでなく(異邦人ではあったが、ユダヤ教の求道者であり、地域の人のために会堂を建てるなど)、人格的にもユダヤ人からも信頼されていたことがわかる。

☞中風・・・脳卒中などによる、身体の一部の麻痺。

□ポイント2 百人隊長はみことばさえいただければ直りますと言いました(7-9節)

イエスさまは「行って、直してあげよう」とおっしゃいました。熱心なお願いを聞いて、すぐに百人隊長の家まで行って、しもべの病気を直そうとくださったのです。

しかし、百人隊長は、イエスさまと一緒に家に帰ろうとしませんでした。代わりに、「ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば直りますから」と言いました。それから次のように続けました。「私は、あなたにはそのような力があることを知っています。私は長い間、軍隊で働いております。軍隊では、私(上司)が部下に、『行け』と言葉で命令すれば、部下は必ず上司の言葉のとおりになります。また、部下に『来い』と言えば、来ますし、『これをしなさい』と言えば、必ずその言葉に従います。私には、部下に対する権威があります。権威のある者の言葉には、人を従わせる力があるのです。」

つまり、イエスさまは最高に権威のあるお方ですから、イエスさまが「直れ」といえば、どんな病気でもそのとおりに治ってしまう。イエスさまの言葉さえあれば、すべてのものはそれに従う…ということ、この百人隊長はよく理解していたのです。ですから、「わざわざ、家まで来てもらわなくても、ただ、おことばをいただくさせてください。そうすれば直りますから」という信仰を持つことができたのです。

- ⑤「私の屋根の下にお入れする資格はありません」と言った背景には、百人隊長が「自分は異邦人だから…」と遠慮した事実も考えられる。しかし、異邦人であるにも関わらず、イエスの権威について、彼のような信仰を持っていたことを、イエスは驚かれた。
- ⑥権威…他人を強制し、服従させる威力(「広辞苑」抜粋)。つまり、本来的には、真の権威は、すべてのものをお造りになられた、神だけが持っている。

□ポイント3 イエスさまは百人隊長の信仰を喜ばれました(10-13節)

イエスさまは百人隊長の信仰をおほめになりました。百人隊長は、神の子キリストが、本当の権威を持っているお方だということ、よく知っていて、イエスさまの言葉には、どんなものでも従わせる力があるということを信じていたからです。イエスさまは、百人隊長の信仰を「驚いた」というほどお喜びになったのです。

イエスさまは「さあ、行きなさい。あなたの信じたとおりになるように」とおっしゃいました。そして、本当に「ちょうどその時」、しもべの病気はいやされました。百人隊長の信仰のとおり、イエスさまが言葉を発せられた瞬間、病気が治ったのです。

- ⑦<11~12節>イエスが、百人隊長の信仰に対する喜びの反面、イスラエルの民の不信仰についての悲しみを表現しているのは明らか。選民ということで、あたかも自分たちに権威があるかのように、高ぶっているイスラエル人ではなく、(たとえ異邦人でも)百人隊長のような信仰を持つ者が天国の祝宴につくことができることを教えている。

□結論 イエスさまは、みことばの権威を信じた百人隊長の信仰を喜ばれました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

イエスさまに喜ばれた百人隊長の信仰を見習おう!

1. 百人隊長は、イエスさまが世界で一番「権威」のあるお方だということを知っていました。どんな王様やお金持ちより、偉いのはイエスさまです。この宇宙にある人間も動物もモノも、すべて神さまによって造られたからです。どんなに偉い人でも、みんな神さまに造られたのですから、神さまよりも偉い人なんて、いるはずがありませんね。みなさんも、イエスさまが誰よりも最も権威のあるお方だということを知りましょう。自分が偉いと思っははいけません。すべての力は神さまからいただいているのです。
2. 百人隊長は、イエスさまの「ことば」には力があるということを知っていました。イエスさまが「直れ」とおっしゃるなら、そのとおりになると信じていたのです。イエスさまのことばには、どんな人でも従わせる権威があります。あなたが心配なときでも、イエスさまが「大丈夫!」と言えば、必ず大丈夫になります。イエスさまはみことばの力を信じる信仰を喜んでくださり、奇跡を起こしてくださいます。みなさんも、みことばの力を信じて、従う人になりましょう。イエスさまが「行け」と言われたら、素直に「はい」と言って従いましょう。イエスさまは、そのような百人隊長の信仰を褒め、しもべの病気を癒してくださいました。あなたも、そのような信仰を持つなら、必ず祝福されます!! 聖書を読んで、従う人になりましょう!

教師ノート

日付	2013年 2月10日
単元	マタイの福音書・2
テーマ	弟子となり、派遣される者となる
タイトル	収穫は多いが働き手が少ない
テキスト	マタイ9:35～10:10
参照箇所	マタイ10:11～15、マルコ6:7～11、ルカ10:1～20
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ9:37b～38
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまの生涯の中で、弟子を育てて用いることは、最も重要な仕事のうちのひとつでした。イエスさまひとりではなさるのではなく、弟子たちにも力を与え、多くの働き手によって、伝道したり、病気をなおしたりなさるためです。

□ポイント1 イエスさまは「収穫は多いが働き手が少ない」とおっしゃいました(9:35～38)

先週の「百人隊長のしもべのいやし」の記事から、今日のテキストまでの間に、イエスさまは、ペテロの姑をいやし(8:14-17)、嵐を静め(8:23-27)、墓場でふたりの人から悪霊を追い出し(8:28-34)、中風の人をいやし(9:1-8)、会堂管理者の娘と長血の女をいやし(9:18-26)、2人の盲人をいやし(9:27-31)、悪霊につかれて口のきけなかった人をいやされました(9:32-34)。たくさんすばらしいみわざを表されたので、イエスさまの「うわさはその地方全体に広まっ」ていきました(9:26)。さらにイエスさまは、イエスさまは、町や村を巡って、福音を宣べ伝えたり、病気をいやしたりなさいました。

そうやって、大勢の人にお会いになったイエスさまは、その人々が弱り果て、倒れているのをご覧になり、非常に悲しい気持ちになられました。人々は住む所や食べるものが充分では無かったです。また、病気の人や、お金がなくて困っている人も多かったでしょう。しかし、それだけでなく、「羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れて」いたということです。これは、神さまのみことばを伝えてくれる人がいなくて、心が弱ってしまっていたということです。つまり、神さまの愛・救い・祝福・いやし・励ましなど、人々の「心」に必要なものを与えてくれる人がいなかったために、人々は弱り果てていたのです。

その時、イエスさまは「収穫は多いが、働き手が少ない」とおっしゃいました。これは、こんなにも、イエスさまの愛に飢え渴いて、福音を待ち望んでいる人が大勢いるのに、それを伝える人がいないという意味です。大きな農園に実ったたくさんの果物を、ひとりで収穫しては間に合いませんね。同じように、イエスさまおひとりで、大勢の人をお世話するより、働き手が多いほど、多くの人が救われます。イエスさまは、弟子たちに「働き手を送ってくださるよう祈りなさい」とおっしゃいました

☞この箇所は、原語(ギリシャ語)では、非常に強い言葉で表現されている。「弱り果てて」は、本来「皮をはがれる・追い詰められて疲れ果てる」という意味。「倒れている」は「打ちのめされている」という意味で、「かわいそうに」は「内臓が揺り動かされる」という意味。

□ポイント2 イエスさまは、弟子たちに権威をお授けになりました(10:1～4)

イエスさまは12弟子を呼び寄せられました。そして、弟子たちにご自分のもっておられる権威をお授けになりました。これで、弟子たちも、イエスさまと同じように、悪霊を追い出したり、病気を治したりすることができます。イエスさまは、弟子たちに力を与え、困っている多くの人たちのために、働くことができるようにしてくださったのです。

その弟子とは…ペテロ・アンデレ・ヤコブ(ゼベダイの子)・ヨハネ・ピリポ・バルトロマイ・トマス・マタイ・ヤコブ(アルパヨの子)・タダイ・シモン・ユダです。

□ポイント3 イエスさまは、12弟子を送り出されました(10:5~10)

イエスさまは、弟子たちをイスラエルの民のところへ遣わされました。異邦人(イスラエル人以外)のところではなく、まず、イスラエル人のところに行くようにとおっしゃいました。そして、「天の御国が近づいた」と宣べ伝えるように命じられました。つまり、「悔改めて、救い主を信じるなら救われる」という福音を伝えるために遣わされたのです。また、病人を直したり、悪霊を追い出したりするように命じられました

☞〈9~42節まで〉派遣についての心得や、直面する迫害、働き人の報いなどについての教え。

□結論 イエスさまは、12弟子に権威を授け、送り出されました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. あなたも、イエスさまの弟子として、世の中に送り出していただくように祈りましょう！！

「働き手を送ってくださるよう祈りなさい」というのは、「あなたの所に伝道者を送ってくださるよう祈りなさい」…という意味だけではありません。なぜなら、イエスさまは、あなたに「働き手」になって欲しいと思っただけからです。みなさんで、多くの人に福音を伝えて欲しいと、願っておられるのです。確かに、あなたは「世界の人々の救いのために、働き手を送ってください！」と祈るのですが、それに応えるのも、あなたです！世界の人々の救いのために、「主の働き手」になるのは、私たち自身なのです。「送ってください」と祈ると同時に、「私を遣わしてください」と祈りましょう！イエスさまも、自分の場所にとどまって人が来るのを待っていたのではなく、自分から出向いて、町や村を訪ね歩いてくださいました。あなたも、自分から、弟子として世の中に送り出していただくように祈りましょう！！あなたの家族やお友だちはみんなイエスさまを信じていますか？日本では100人のうち99人はイエスさまを信じていません。イエスさまを必要としている人が多いのに対して、イエスさまのことを伝える人が足りませんね。神さまの愛を伝える弟子として、イエスさまがあなたを送り出してくださいるようにお祈りしましょう。

2. イエスさまから力をもらって、「主の働き手」になりましょう！！

イエスさまは、あなたにできないことを無理やり「やれ！」と命令するようなお方ではありません。弟子たちにも、いきなり「病気を治せ！」とはおっしゃいませんでした。イエスさまは、お手本を示してくださいました。弟子たちは、まずイエスさまが、病気を直したり、悪霊を追い出したりなさるところを見ることができたのです。イエスさまは、その上で、必要な力を弟子たちに与えてくださいました。弟子たちが送り出されたのは、そのようにイエスさまに育てられ、力を与えられた後でした。あなたを育て、力を与え、用いてくださるのはイエスさまです。あの12弟子も、イエスさまから力をいただいたから、弟子としての働きができたのです。今、あなたは弱いかもしれませんが、でも、自分を見てよくよするのはやめましょう。お祈りして、イエスさまの力をいただきましょう！あなたも、教会の先生に教えてもらって、少しずつ「働き手」として成長することができます。神さまの力に頼り、イエスさま100%でいきましょう。私たちは0%でいいのです。あなたはどんな働きがしたいですか(牧師・教会学校の先生・奏楽・お友だちを教会に誘う・困っている人を助ける、など)？

教師ノート

日付	2013年 2月17日
単元	マタイの福音書・2
テーマ	みことばを素直に受け入れ、実を結ぶ者となる
タイトル	良い地に蒔かれた種
テキスト	マタイ13:1～9、18～23
参照箇所	マルコ4:1-20、ルカ8:4-15
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ13:23 or マルコ4:20
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまは、人々に大切なことをお教えになるとき、「たとえ」を使ってお話になることがありました。みなさんは、タネを蒔いたり、植えたりしたことがありますか(何のタネをどんな場所に蒔いたか聞いてみましょう)? 種が良く育つためには、どんな場所(地面)に、蒔けば良いか知っていますか?

□ポイント1 イエスさまは種蒔きのたとえ話をされました(1-7節)

4つのタネが、それぞれ違う場所(地面)に落ちました。

■道ばたに落ちたタネがありました(4節)。「道ばた」とは、畑のまわりのあぜ道や、道路のことです。道ばたは、土が通る人の足で踏み固められているので、タネは土の中に埋まることができません。ですから、このタネは、土の上に転がったままです。そこへ、鳥がやってきて、そのタネをパクっと食べてしまいました。タネは、芽を出すことさえできなかったのです。

■土の薄い岩地に落ちたタネがありました(5-6節)。「土の薄い岩地」とは、表面には薄く土がかぶさっているものの、そのすぐ下は、ガチガチの岩がある地面のことです。ユダヤ地方には、このような土地が多くありました。このタネは、道端に落ちたタネとちがって、少しだけ土に埋まることができました。そして、太陽が当たると、土が薄い分、早く暖められ、すぐに芽を出すことができました。しかし、深く根を張ろうとしたところ、すぐ下にある岩にぶつかってしまい、水分や栄養を吸収することができませんでした。それで、太陽が照り続けると、水分を補いきれず、カラカラに乾いて枯れてしまいました。

■いばらの中に落ちたタネがありました(7節)。「いばら」というのは、トゲのある植物のことです。このタネは、見た目には良い土地に落ちました。しかし、そこは、いばらの根がたくさん残っている土地だったのです。やがて、このタネもいばらも、芽を出し始めました。しかし、いばらの方が、どんどん早く成長し、土地の上を覆ってしまいました。タネの芽は伸びる方向をふさがれてしまい、成長できなくなってしまいました。結局、いばらに邪魔されて、芽は成長することができず、枯れてしまいました。

☞ユダヤの種蒔きは、日本のそれとは方法が異なる。まずタネをばら蒔いて、それから鋤で畑を耕す(土をかける)。日本でするように、耕した畑にひとつひとつタネを植える方法ではないので、タネが道ばたや岩地に落ちることがあった。

□ポイント2 イエスさまは種蒔きのたとえ話の意味を教えてくださいました(18-22節)

4つめのタネの話をする前に、この「たとえ」の意味をお話しましょう。イエスさまは、この「たとえ」の意味を説明してくださいました。「種」は「みことば」のことです。「種を蒔く人」はイエスさま(みことばを語る人)です。そして、「地」は、イエスさまのみことばを聞く人の心、つまり私たちの心の様子を表しています。

■道ばたは、悪魔が来てみことばをとってしまう心をあらわしています(19節)。道路の土のように、硬い心は、イエスさまのこぼれを、まったく受け入れません。みことばを聞いても、「そんなの知～らな

い、「俺は従わないよ〜」、「信じるなんてバカらしい」といって拒絶する、かたくなな心のことです。せっかく、もらったおやつを、テーブルに置きっ放しにしておくと、誰かに食べられてしまうように、せっかくみことばを聞いても、心の中に受け入れて大切にしていないと、悪魔が来て簡単に奪い去ってしまうのです。私たちの心が「道ばた」では、せっかくのみことばも、何の結果ももたらさない(芽も出さないうちに奪われる)のです。

■岩地は、みことばをきいても、困難や迫害があると、すぐに従わなくなってしまう心をあらわしています(20～21節)。土の薄い岩地の心は、「すぐに芽を出した」とあるように、みことばを聞いたときは「これ最高!」「その通り!」と言って、喜んでそれを受け入れるかもしれませんが、また、それを行なおうとして、一瞬はやる気に燃えるかもしれませんが、しかし、「薄い」という言葉が表すように、みことばを、深く受け入れておらず、しっかり根を張って定着させていないので、しばらくの間そうするだけです。日差しですぐに枯れてしまった芽のように、困難や迫害があると、すぐに従うのをやめてしまいます。

■いばらの中は、誘惑があるとすぐに負けてしまう心をあらわしています。私たちの身の回りには、誘惑がたくさんあります。礼拝やディボーションより、ゲーム・テレビ・遊園地・おやつ・デートの方が楽しく見えるかもしれません。みことばに従う人生よりも、自分の欲望を満たして生きる方が心地よいように思えるかもしれません。いばらに邪魔されて、タネが成長できない心とは、みことばに従うよりも、誘惑に負け、自分の楽しさを優先させてしまう心のことです。

※「悟らない」…理解できないという意味ではなく、受け入れないということ。つまり「悟る」というのは理解力の問題ではなく、「受容力」(みことばを素直に受け入れて、自分の心に取り込む姿勢)のこと。

□ポイント3 良い地に蒔かれた種は実を結びます

良い地に落ちた種は、100倍、60倍、30倍に実ります。良い地は、みことばを素直に受け入れ、行なう人の心を表しています。良い地に落ちたタネは、自然に成長し、実を結びます。同様に、私たちが、本当の意味で、みことばを素直に受け入れるなら、それは自然に行動にあらわれるはずです。そして、そのような人の人生には、100倍!というビックリするほど大きな結果があらわれるのです＝お友だちや家族が救われる・人間関係がうまくいく・夢がかなう(勉強・スポーツ・職業)・健康になる・お金持ちになる・愛にあふれた生活・いつもニコニコできる・信頼される人になる・がまん強い人になる…など。みことばを素直に受け入れ、行なう人の人生には、すばらしい結果があらわれるのです。

□結論 みことばを、素直な心で聞いて行なう人は、実を結びます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

みことばを素直に受け入れる「良い地」になろう!あなたの心は、4つの地面の様子のうち、どれに近いでしょうか?いつも、礼拝のメッセージをどんな態度で聞いていますか?また、日曜日以外、教会にいる時以外にも、みことばを思い出し、従っていますか?私たちの心は弱いですから、みことばを聞いても、すぐに忘れてしまったり、従おうとしても、困難があるとすぐに飽きたり、いやになったり、面倒になってしまったりします。また、教会の中では、みことばに従っていても、学校のお友だちの前では、イエスさまのことをあと回しにしまったりしてしまいます。でも、それでは、どんなにすばらしいみことばを聞いても、実を結ぶことができません。礼拝で聞いたメッセージが、実を結び、あなたの人生が何倍にも祝福されるように、「良い地」になりましょう。みことばを素直な心で受け入れ、日曜日以外もいつも思い出す習慣をつけましょう。毎日、自分で聖書を読んでお祈りするディボーションにチャレンジしましょう。どうやったら、そのような習慣が身につくか、みんなでアイデアを出し合って工夫しましょう。

教 師 ノ ー ト

日付	2013年 2月24日
単元	マタイの福音書・2
テーマ	どんな状況でも奇跡を信じ続ける者となる
タイトル	水の上を歩く
テキスト	マタイ14:22～33
参照箇所	マルコ6:45-51、ヨハネ6:15-21
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ14:27 or マタイ14:33
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまは、生涯のうち、たくさんの奇跡をあらわされました。イエスさまが5つのパンと2匹の魚を増やして、5000人に配ったことを知っていますか？今日は、その後に起こったことのお話です。

※必要に応じて「5つのパンと2匹の魚」のお話をおさらいしましょう(「こひつじ」ホームページ2008年11月16日参照)。

□ポイント1 イエスさまは湖の上を歩かれました(22-25節)

イエスさまは、集まった群集のために、5つのパンと2匹の魚を増やして、5000人に配られるという奇跡をあらわされました(女性と子どもを合わせると、おそらく1万人以上。14:15～21参照)。その後すぐ、イエスさまは、弟子たちを舟に乗り込ませ、群集を帰らせました(理由はヨハネ6:15)。それから、お祈りをなされるために、ひとりで山に登られました。

弟子たちは、舟で、湖の向こう岸へ向かっていました。夜になるころ、舟は岸から何キロメートルも離れていました。しかし、強い向かい風だったので、彼らは、波に悩まされていました。夜中の3時ごろ、弟子たちがへトへトになった頃のことです。なんと、イエスさまは、水の上を歩いて弟子たちのところに行かれました。

□ポイント2 弟子たちは、すぐに信じることはできませんでした(26-27節)

弟子たちは、イエスさまが湖の上を歩いたらしくるのを見て、「あれは幽霊だあ〜！」と言っておびえました。そして、恐ろしさのあまり、「ギャーっ!」、「うわ〜〜ッ!」と叫び声をあげました。弟子たちは、いつもイエスさまと一緒にいて、たくさんの奇跡をみてきたのに、イエスさまが湖の上を歩いているのが信じられなかったのです。彼らは、イエスさまが、何でもできる、本当の神の子であることを知っていたはずですが、忘れてしまっていたのです。

イエスさまは、信仰の弱い弟子たちに、「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない。」とおっしゃいました。怖がっている彼らを、励まし、安心させてくださったのです。

□ポイント3 ペテロはイエスさまのところに行きました(28-33節)

親しみのある声で語られた、やさしい言葉を聞いて、弟子たちは、それがイエスさまだと分かりました。ペテロは、すぐに言いました「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」自分も水の上を歩いて、イエスさまの所へ行けるようにして欲しいと頼んだのです。

イエスさまは、ペテロに「来なさい」とおっしゃいました。ペテロは、その言葉を信頼し、イエスさまなら不可能はないという信仰を持って、舟の外に出ました。そして、水の上に立つと、イエスさまだけを見つめて、歩いて行きました。

ところが、ペテロは、イエスさまから目をはなし、風によって大きな波が立つのを見てしまいました。すると、また恐ろしくなり、イエスさまを信じる心が弱ってしまいました。その瞬間、ペテロの体は、水に沈み始めました。そこは、波の高い、深い湖の真ん中ですから、おぼれてしまっは大変です。ペテロは大慌てで「主よ。助けてください！」と叫びました。

そこで、イエスさまは、すぐに手を伸ばして、ペテロをつかんで助けてくださいました。そして「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」とおっしゃいました。信じてさえいれば、ペテロも水の上を歩くことができたのに、現実的なこと(波・風・自分の力)を見てしまったから、おぼれそうになったのです。それから、イエスさまは、ペテロを連れて、舟に上がられました。すると、その時、風がやみました。舟にいた弟子たちは、みなイエスさまを礼拝して言いました「確かにあなたは神の子です。」

□結論 イエスさまは、何でもできる、本当の神さまです

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

■イエスさまは何でもできる神さまだということを、いつも信じ続けよう！

弟子たちは、イエスさまの奇跡をたくさんみて、イエスさまが何でもできるお方だということをよく知っていたはずですが。この日も、イエスさまが5つのパンと2匹の魚を増やして5000人(以上)に配ったのを見たばかりでした。そのイエスさまが、心配して近づいてくださったのに、弟子たちは「幽霊だ」と言って怖がりしました。みなさんは、聖書のお話をいつもきいていますが、どんなときでも、「イエスさまは何でもできる」ということを信じていますか？いざというときに、怖くなってイエスさまを信じられなくなってしまいませんか？ペテロははじめイエスさまの力を信頼していましたが、波を見て怖くなりました。私たちは、ついつい、奇跡を信じられず、現実の状況に振り回されてしまいます。また私たちは、ついつい、イエスさまのことよりも、自分の目で見えることや自分の考えに頼ってしまいます(例:テストのとき、イエスさまが守ってくれると信じていても、難しい問題が出ると「あ～、やっぱり無理だ」と弱ってしまう。スポーツでも、始めは「イエスさまがついているから絶対勝てる」と信じていても、相手が強く、点差がついてくると「もう負けだ～」と心が折れる、カゼが癒されるように祈っても、体温計を見ると「やっぱりダメかぁ」と信じられなくなる…など教師は自分の体験もふまえて語る)。イエスさまに不可能なことはありません！あなたはそれを知っているはずですが。あなたの周りがどんな状況でも、イエスさまだけを見て、それを「信じ通す」ことができる信仰を持ちましょう！

■信仰が持てないときこそ「主よ助けてください」と叫びましょう。

12弟子のペテロでさえ、信仰が弱く、溺れかけました。しかし、イエスさまは、すぐに手を伸ばして、ペテロを助けてくださいました。イエスさまは信仰の弱い私たちを助けてくださる愛のお方です。イエスさまは、あなたが困っているとき、それをいつもご存知です。何度失敗しても大丈夫です。イエスさまは、私たちを助け、あなたの人生の舟と一緒に乗ってくださいます。イエスさまと一緒に舟に乗っていれば、どんな波(困難や迫害)も静まり、穏やかに過ごすことができます。イエスさまは、確かに神の子です。